

研究論文

# 日本のアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムにおける恋愛指向の多面性

三宅大二郎、平森大規

## 1 はじめに

近年、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（LGBT）の可視化とともに、多様な性のあり方が認知されるようになってきた。その中でも、日本で可視化が進みつつあるのが「他者に性的に惹かれない」（Decker, 2019, p. 20）ことを意味する「アセクシュアル（asexual/asexuality）」<sup>1</sup>である。そして、アセクシュアルとともに言及されることが多いのが「誰にも恋愛感情を持たない」（Decker, 2019, p. 43）ことを意味する「アロマンティック（aromantic/aromanticism）」である。これらの両方を自認する人は「アロマンティック・アセクシュアル」と呼ばれており（三宅 & 平森, 2021）、テレビドラマ（野口 et al., 2022）やラジオ（アシタノカレッジ, 2022）、ウェブニュース（日本放送協会, 2022）などメディアを中心に上げられることが増えている。

一方、日本の学術研究においては、アロマンティックが取り上げられることは少なく、アセクシュアルに関する研究が少数あるのみである（Lehtonen, 2018; 松尾, 2021; 松浦, 2020; 三宅 & 平森, 2021; 吉岡, 2019）。大阪市（釜野 et al., 2019）や埼玉県（埼玉県, 2021）がアセクシュアルを選択肢の1つとして含んだ性的指向の設問や恋愛指向の惹かれに関する設問を含む無作為抽出調査を実施しているが、恋愛指向アイデンティティについてはたずねられていない。諸外国に目を向けると、アセクシュアルの恋愛側面について研究しているものがみられる（Antonsen et al., 2020; Carvalho & Rodrigues, 2022）、アロマンティックがアセクシュアルとの関連の中で議論されていることがわかる。諸外国においても、アロマンティックを選択肢の一つとして設定している無作為抽出調査はほとんどな

---

<sup>1</sup> 本稿では、先行研究で Asexual や A セクシュアル と表記されている場合でも、まとめてアセクシュアルと表記する。

いが、アロマンティックに関連する多様な恋愛的指向アイデンティティを持つ当事者コミュニティである Aromantic-spectrum Union for Recognition, Education, and Advocacy (AUREA) によるオープン型ウェブ調査が行われており、恋愛的指向アイデンティティの多様性や恋愛的指向の多面性を示唆する結果が報告されている (AUREA Aro Census Team 2020, 2021)。

以上から、既存研究で不足している点を3つ指摘したい。1つ目に、日本の研究ではアロマンティックなどの恋愛的指向アイデンティティを主な関心とする研究がほとんどない点である。後述するように、用語の意味が日本語と英語で異なる場合があるなど、アロマンティックやアセクシュアルをとりまく社会的・文化的背景は日本と英語圏で大きく異なる。欧米における既存研究はアセクシュアルが関心の中心にあり、アロマンティックはアセクシュアルの恋愛的指向の1つとして捉えられる傾向がある。一方で、日本では、アセクシュアルに関する議論自体が恋愛を中心に展開されている傾向があり、当事者コミュニティにおける恋愛的指向の位置づけが英語圏とは異なる。2つ目に、既存研究ではアロマンティックか否かという二分法に基づいた議論がなされており、後述する当事者コミュニティの多様性が考慮されていない点である。アロマンティックをスペクトラムとして捉え、多様なアイデンティティを前提に恋愛的指向を議論する必要がある。3つ目に、2つ目の課題と関連して、既存研究では恋愛的惹かれの有無のみで恋愛的指向を捉えている点である。当事者コミュニティによる調査結果から恋愛的指向には多面性があることが示唆されており、恋愛的指向アイデンティティや恋愛的惹かれ、恋愛に関連する欲求を含む恋愛的指向のさまざまな側面について議論する必要がある。

そこで本稿では、日本において初めてアロマンティックを含む多様なあり方を想定して設計されたオープン型ウェブ調査である「アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラム調査2020」(以下、「Aro/Ace 調査2020」)を用いて (Aro/Ace 調査実行委員会, 2021)、日本におけるアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛的指向アイデンティティや恋愛的惹かれ、恋愛に関連する欲求について記述し、恋愛的指向の多面性について議論する。

## 2 背景

### 2-1 アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムに関連する概念

#### 2-1-1 アイデンティティの細分化と包括概念

アロマンティックは、「恋愛の指向 (romantic orientation)」の1つとされ、性的指向の1つとされるアセクシュアルとは別次元の概念として用いられる。恋愛の指向は誰に対して恋愛の的に惹かれるのか惹かれないのかということと関連し、性的指向とは区別される (Antonsen et al., 2020)。アセクシュアル当事者の中で性的指向と恋愛の指向の区別が意識されるようになったのは、アセクシュアルの性的指向に関する議論の中だったといわれている (Chu, 2014)。AUREA (2019) によれば、アセクシュアルのコミュニティには性的にも恋愛の的に他者に惹かれない当事者が一定数おり、はじめはそのあり方に名前がなかったものの、2002年にあるアセクシュアル当事者がアロマンティックという言葉を使い始めてから徐々にアセクシュアル・コミュニティ内で定着していった。なお、アセクシュアルの恋愛の指向にはさらに多様性があり、アロマンティックのほかにも「ヘテロロマンティック (heteroromantic)」、 「ホモロマンティック (homoromantic)」、 「バイロマンティック (biromantic)」を自認することがあると報告されており (Brotto et al., 2010)、恋愛の的に惹かれるアセクシュアルをまとめて表現する際は「ロマンティック・アセクシュアル (romantic asexual)」と呼ぶのが一般的である (Antonsen et al., 2020)。さらに、惹かれの有無や惹かれる性別以外にも「惹かれ方」の多様性を示すカテゴリーも存在する。代表的なのが、「グレイロマンティック／グレイアロマンティック (greyromantic/grey aromantic)」と「デミロマンティック (demiromantic)」である。前者は、まれに／弱い恋愛の的に惹かれる人々、特定の環境下で恋愛の的に惹かれる人々を指すか、恋愛の的に惹かれをまったく感じない人以外の人も包括するための用語である。後者は、情緒的な繋がりができてからのみ恋愛の的に惹かれる人々という意味で用いられる (AUREA, 2021a)。その他、恋愛の的に惹かれるが、その感情が報われることや相手と関係を持つことを必要としない人々を指すか、あるいは恋愛関係になると恋愛の的に惹かれがなくなるという意味で用いる「リスロマンティック (lithromantic)」というカテゴリーもある (AUREA, 2021a)。

以上、カテゴリーの細分化について記述したが、コミュニティ内の包括概念についても簡単に説明する。アロマンティックやそれに近いアイデンティティを包括する用語として「アロマンティック・スペクトラム (aromantic spectrum)」や「Aro」、アセクシュアルやそれに近いアイデンティティを包括する用語として「アセクシュアル・スペクトラム (asexual spectrum)」や「Ace」を用いることがある (AUREA, 2021b)<sup>2</sup>。

## 2-1-2 日本の用法

日本では、アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムに関連するアイデンティティは英語圏の用語をカタカナにして使われていることが多い (Aro/Ace 調査実行委員会, 2021)。しかしながら、用語の意味内容が一部英語圏と異なる点が日本のコミュニティの特徴として挙げられる。例えば、日本ではアロマンティック・アセクシュアルに近い意味で「アセクシュアル」を用いることがあり、ロマンティック・アセクシュアルに近い意味で「ノンセクシュアル」を用いることがある (Lehtonen, 2018)。

その一方で、現在のところアロマンティック・スペクトラム当事者のみのグループや活動は見当たらず、恋愛指向によってコミュニティが分化しているとは考えづらい。加えて、アセクシュアルとノンセクシュアルはもちろんのこと、デミセクシュアル／デミロマンティックやグレイセクシュアル／グレイロマンティックなどを含むさまざまな用語が当事者の交流会を行う団体で紹介されていることから (特定非営利活動法人にじいろ学校, 2021)、日本の当事者コミュニティを分析する上ではアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムという枠組みを用いることが適切だと思われる。

## 2-2 アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛指向に関連する研究

### 2-2-1 諸外国における研究動向

Antonsen et al. (2020) は英語圏で実施された複数の有意抽出の調査データ

<sup>2</sup> Aroをアロマンティックの略語、Aceをアセクシュアルの略語とする場合もある(AUREA, 2021b)。

を二次分析し、アセクシュアル・スペクトラムの25.3%がアロマンティック、26.4%がヘテロロマンティック、38.3%がバイロマンティック、4.9%がホモロマンティック、5.1%がその他の恋愛の指向だったと報告した。また、アロマンティックとロマンティックを比較した結果、恋愛の指向によって年齢や性自認の割合は変わらないことを明らかにした (Antonsen et al., 2020)。一方、複数のアセクシュアル・コミュニティを対象に調査したCarvalho & Rodrigues (2022)によれば、アロマンティック・アセクシュアルの方がロマンティック・アセクシュアルよりもノンバイナリー (男性・女性にあてはまらない性自認を持つ人) の割合が高かったと報告している。また、同じ調査から、アロマンティックとロマンティックを比較した結果、ロマンティックの方が恋愛関係になることを望む割合が高かった (Carvalho & Rodrigues, 2022)。

以上から、諸外国の研究ではアセクシュアル (スペクトラム) を対象に、その中でアロマンティックとロマンティックを比較する研究が少数あることがわかる。諸外国においても恋愛の指向に注目する研究が少ないのは、すでに述べたような性的指向と恋愛の指向の区別がアセクシュアルの当事者コミュニティの中で後から定着したことが影響している可能性がある。これらの研究の課題としては、恋愛の指向を恋愛の惹かれを抱くか否かという二分法で捉えており、すでに述べたようなアロマンティック・スペクトラムの多様性を考慮できていない点が挙げられる。

## 2-2-2 当事者団体による調査

以上のように既存研究では恋愛の指向を二分法的に捉えているものが多い一方、アロマンティック・スペクトラムの当事者団体による調査はアロマンティック・スペクトラムの多様性を考慮に入れている。当事者団体による調査として大規模なものは「アロ・センサス (The Aro Census)」が挙げられる。この調査は、2020年からAUREAが実施しているオープン型ウェブ調査で、アロマンティック・スペクトラムにあてはまる人を対象に英語で実施されている。2020年の調査結果によると、回答数は9,758で、回答者の居住地域はアメリカ (53.1%)、イギリス (8.9%)、カナダ (6.9%) が上位3か国だった (AUREA Aro Census Team 2020, 2021)。恋愛の指向アイデンティティについては、複数回答で上位3

つがアロマンティック／Aro (72.9%)、以前はアセクシュアル／Aceと表現していた (36.9%)、Aro スペクトラム (35.2%) だった。その他にも、グレイロマンティックが17.2%、デミロマンティックが14.3%、リスロマンティックが3.8%だったと報告している (AUREA Aro Census Team 2020, 2021)。恋愛的に惹かれた経験については、「ある」が20.7%、「ない」が45.0%、「わからない」が34.3%という結果だった。また、ときめき (crush) を感じる経験については、「ある」が36.0%、「ない」が37.0%、「わからない」が26.9%で、「ある」と「ない」に近い値だった。その一方、特定の誰かと恋愛関係になることを望む経験については、「ある」が29.7%、「ない」が50.5%、「わからない」が19.8%で、「ない」が約半数を占めた (AUREA Aro Census Team 2020, 2021)。

これらから、恋愛惹かれに関する項目は、聞く内容によって回答の分布に差が出る可能性が示唆される。上述のように、ときめきのような感情を持つ経験と恋愛関係望むか否かでは、後者の方が「ある」の割合が低くなっており、他者との行動を伴う欲求に関する項目の方が他者との行動を伴わない欲求の項目よりも「ある」と答える割合が低くなる可能性がある。また、恋愛指向アイデンティティ別に恋愛惹かれに関する項目を整理したデータは公開されていなかったが (AUREA Aro Census Team 2020, 2021)、恋愛指向アイデンティティによっても回答の分布に差がある可能性がある。

### 2-2-3 日本における研究動向

次に、日本におけるアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛指向に関連する経験的研究について概観する。アセクシュアルに関する研究は少しずつ行われるようになってきているが、恋愛指向を主題にした経験的研究は質的や量的など調査手法を問わずほとんど行われていない。例えば、三宅&平森 (2021) は、本論文でも使用している「Aro/Ace 調査2020」を利用して、性別および年齢階級別にみたアセクシュアル・スペクトラム・アイデンティティの分布や性的惹かれに関連する項目間の差異について検討しているが、アロマンティック・スペクトラム・アイデンティティについては二次的に取り上げているのみである。日本でアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛指向に関する研究がほとんど行われていない背景としては、そもそもアロマン

ティック／アセクシュアル・スペクトラムに関する研究が少ないため、恋愛の指向に関する議論も発展していない点が挙げられる。そこで、以下では日本では数少ないアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛の指向に関わる経験的研究を紹介する。

現在日本に存在する量的調査のうち、アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛の指向における人口学的特徴について検討可能なデータとして、2019年に行われた無作為抽出調査の「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」（大阪市民調査）が挙げられる（釜野 et al., 2019）。この調査では、恋愛の指向アイデンティティをたずねる設問はないものの、恋愛の惹かれに関する設問がある。調査の結果、出生時に割り当てられた性別（以下、出生時性別）が女性である回答者のうち2.9%がこれまで男女どちらにも恋愛感情を抱いたことがない一方で、出生時性別が男性である回答者のうち2.0%がこれまで男女どちらにも恋愛感情を抱いたことがないことが明らかになった（釜野 et al., 2019）。また、アロマンティックをとりまく社会意識が把握可能なデータとして、全国無作為抽出調査の「性的マイノリティについての意識調査：2019年（第2回）調査」が挙げられる（釜野 et al., 2020）。調査の結果、それぞれ回答者の31.2%が「男性にも女性にも恋愛感情を抱かない女性は、おかしい」「男性にも女性にも恋愛感情を抱かない男性は、おかしい」と感じることが明らかになった。なお、回答者の26.8%が「女性が女性に恋愛感情を抱くのはおかしい」、29.3%が「男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい」、28.1%が「男女両方に恋愛感情を抱くのはおかしい」と感じており、それほど大きな差はみられなかった（釜野 et al., 2020）。

質的調査法を用いた日本におけるアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛の指向を検討する上で参考になるとと思われる研究も少数ではあるが存在する。例えば、Lehtonen（2018）は日本のアセクシュアルを自認する人々へのインタビューや日本の当事者コミュニティのウェブサイト、インターネットの記事等の分析を通して、日本と英語圏のアセクシュアルの差異について分析し、日本では性的なことが恋愛関係に紐づけられつつも、表面化するのは恋愛に関する規範であることを示した。これをもとに、日本のアセクシュアルに関わる議論も恋愛にフォーカスされやすく、恋愛的に惹かれないことがアセクシュアル

自認へのきっかけとなると指摘している (Lehtonen, 2018)。同じくアセクシュアルを自認する人たちにインタビューを行った松尾 (2021) も、アセクシュアルの語りにおいて恋愛に関することが多いと明らかにしている。一方で、松尾 (2021) は恋愛的に惹かれるアセクシュアルが自分の恋愛感情についてわからないと感じる経験や、恋愛的に惹かれないと認識しているアセクシュアルがパートナーを欲することからロマンティックかもしれないと悩む様子を報告しており、恋愛の指向にはゆらぎや流動性があることを明らかにしている。

以上、日本では恋愛がアセクシュアルの自認に重要な意味を持つこと、恋愛の指向のゆらぎや流動性、そして用語の使い方が混在している現状から、アロマンティック・スペクトラムとアセクシュアル・スペクトラムは諸外国以上に複雑に絡み合っていると推測される。したがって、日本で欧米諸国のようにアセクシュアル・スペクトラムの恋愛の指向を検討するには、広くアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムを対象にした調査を分析する必要があると考えられる。加えて、上述の松尾 (2021) の研究からは、恋愛に惹かれるか否かの認識の違いは特定のパートナーを望むか否かが関連している可能性が示唆される。吉岡 (2019) も特定の他者への関心や付き合うことへの主体性から恋愛への肯定的な態度が形成されていると考察しており、両者の共通点として「付き合う」など特定の他者との関係性に対する態度が、恋愛的に惹かれるまたは惹かれないことの重要な準拠点となる可能性がある。

このように、諸外国でもアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛の指向に関する研究は少なく、日本においてもほとんど行われていないのが現状である。そこで本稿では、アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムを対象にした調査研究を行うべく立ち上げられたAro/Ace調査実行委員会 (2021年12月に「アセクシュアル啓発委員会」と統合し、As Loop (アズループ) に改称) が実施した「Aro/Ace調査2020」を分析し、日本のアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムにおける恋愛の指向の多面性について検討する。



### 3 データと方法

#### 3-1 データ

本稿では、「Aro/Ace 調査実行委員会」により2020年6月に実施された「Aro/Ace 調査2020」(n=1,685)を使用する。本調査は、「(1)アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムを自認している、またはそれに近い、そうかもしれないと思っている方、(2)日本語の読み書きをする方(国籍、居住地は問わない)、(3)年齢が回答時13歳以上の方」(Aro/Ace 調査実行委員会, 2021: 12)を対象としたオープン型ウェブ調査である。調査の広報には上記の文言を利用し、これら3つの条件に該当する人が調査対象者である旨を明記した上で、ソーシャル・ネットワークング・サービスのTwitter、Aro/Ace 調査実行委員会のウェブサイトや当事者LINEグループ等を通じて行われた<sup>3</sup>。サンプルの代表性を含めた調査結果の詳細については、『アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラム調査2020 調査結果報告書』(Aro/Ace 調査実行委員会, 2021)に記載されている。

#### 3-2 方法

今回の分析では、上記の先行研究からアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛の指向を考察するにあたって重要な項目である、Aro/Ace 自認前の恋愛の惹かれ、Aro/Ace 自認後の恋愛の惹かれ、特定の人に対する深い関心、ドキドキ、交際意欲の分布をアロマンティック・スペクトラムのアイデンティティ別に示す。なお、本調査ではアロマンティック・スペクトラムのアイデンティティをたずねる設問の選択肢として、「ロマンティック【恋愛的に惹(ひ)かれる】」「アロマンティック」「グレイ(ア)ロマンティック」「デミロマンティック」「リスロマンティック」「クエスチョニング」「Aro/Aceを自認していない」「その他」を用意している。分析にあたっては、アロマンティック・スペ

<sup>3</sup> 本調査の対象者は「アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムを自認している、またはそれに近い、そうかもしれないと思っている」人であるため、他者に恋愛の／性的惹かれを持たない人であっても、上記にあてはまらない場合は調査対象者には該当しない。したがって、アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムに関する用語を知らない場合は回答しない設計になっている。

クトラムの多様性を考慮に入れるべく、「Aro/Aceを自認していない」と「その他」を「その他」と再コーディングした以外は元の選択肢をそのまま利用している。また、分析に使用する設問に無回答であるケースは分析から除外している。

#### 4 分析結果

Table 1は、アロマンティック・スペクトラム・アイデンティティ別にAro/Ace自認前の恋愛的惹かれ（設問：「【Aro/Aceを自認する前に】恋愛的に惹（ひ）かれた相手としてもっとも近いものを選択してください。」）の分布、Table 2はアロマンティック・スペクトラム・アイデンティティ別にAro/Ace自認後の恋愛的惹かれ（設問：「【Aro/Aceを自認してから】恋愛的に惹（ひ）かれた相手としてもっとも近いものを選択してください。」）の分布をみたものである。なお、本調査では恋愛的惹かきをたずねる設問の選択肢として、「男女どちらにも恋愛的に惹（ひ）かれたことがない」「男性のみ」「ほとんどが男性」「男性と女性同じくらい」「ほとんどが女性」「女性のみ」「性別に関係なく惹（ひ）かれる」「分からない」「Aro/Aceを自認していない」「その他」を用意している。分析にあたっては、「男性のみ」と「ほとんどが男性」を「男性」に、「男性と女性同じくらい」と「性別に関係なく惹（ひ）かれる」を「両性・全性」に、「女性のみ」と「ほとんどが女性」を「女性」に、「Aro/Aceを自認していない」と「その他」を「その他」と再コーディングしている。また、本項目は恋愛的惹かきの相手をたずねる設問であるため、性別に分析を行うことで異性に対する恋愛的惹かれと同姓に対する恋愛的惹かきを区別可能にしている。本調査では、出生時性別と現在自分が捉えている性別が一致していると思うかをたずね、一致していると思うと回答した場合のみ、さらに出生時性別（女性（本論文ではシスジェンダー女性として分類）または男性（本論文ではシスジェンダー男性として分類））をたずねている。したがって、出生時性別と現在自分が捉えている性別が一致していると思わない、または分からないと回答した場合（本論文では非シスジェンダーとして分類）は出生時性別をたずねていない。

Table 1のシスジェンダー女性をみると、アロマンティックの方が他のアイデンティティを持つ回答者よりも男女どちらにも恋愛的に惹かれたことがない割合が高い一方、グレイ（ア）ロマンティック、デミロマンティック、リスロマ

Table 1 性別にみたアロマンティック・スペクトラム・アイデンティティとAro/Ace自認前の恋愛の惹かれの関係

(%)		テ ア イ ツ ク マン	ロ グ レ イ (ア) マン テ イ ツ ク	テ デ ミ ロ マン テ イ ツ ク	テ リ ス ロ マン テ イ ツ ク	テ ロ マン テ イ ツ ク	ク エ ス チ ョ ニン グ	そ の 他	全 体
シ ス ジ エ ン ダ ー 女 性 <sup>a</sup>	男女どちらにも恋愛の に惹かれたことがない	47.3	12.2	14.5	6.3	2.1	19.7	30.9	29.7
	男性	29.1	50.0	44.4	56.3	67.9	27.6	34.5	39.3
	両性・全性	6.2	13.5	17.9	25.0	20.0	18.4	16.4	12.5
	女性	3.1	6.8	10.3	4.7	5.7	5.3	5.5	4.9
	分からない	13.4	14.9	10.3	7.8	3.6	22.4	5.5	11.7
	その他	1.0	2.7	2.6	0.0	0.7	6.6	7.3	1.9
n		516	74	117	64	140	76	55	1,042
シ ス ジ エ ン ダ ー 男 性 <sup>b</sup>	男女どちらにも恋愛の に惹かれたことがない	46.3	12.5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.2
	男性	2.4	12.5	20.0	0.0	14.3	0.0	0.0	7.7
	両性・全性	2.4	0.0	20.0	0.0	33.3	0.0	0.0	11.5
	女性	29.3	75.0	20.0	0.0	52.4	0.0	50.0	39.7
	分からない	17.1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0	11.5
	その他	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
n		41	8	5	1	21	0	2	78
非 シ ス ジ エ ン ダ ー <sup>c</sup>	男女どちらにも恋愛の に惹かれたことがない	60.7	10.4	14.0	0.0	8.6	23.4	20.5	35.1
	男性	12.6	33.3	28.0	37.1	48.3	20.3	25.6	23.1
	両性・全性	10.5	33.3	32.0	42.9	22.4	20.3	20.5	19.8
	女性	2.8	10.4	18.0	11.4	19.0	15.6	5.1	8.9
	分からない	10.9	8.3	6.0	8.6	1.7	17.2	17.9	10.4
	その他	2.4	4.2	2.0	0.0	0.0	3.1	10.3	2.8
n		247	48	50	35	58	64	39	541

Note. いずれの性別についても期待度数5未満のセルが20%以上であったため、モンテカルロ・シミュレーションを行った上でカイ二乗検定を行っている。<sup>a</sup>  $\chi^2$ : 263.615 ( $p < .001$ ), Cramer's V: 0.225 ( $p < .001$ ). <sup>b</sup>  $\chi^2$ : 50.456 ( $p = .037$ ), Cramer's V: 0.360 ( $p = .037$ ). <sup>c</sup>  $\chi^2$ : 199.305 ( $p < .001$ ), Cramer's V: 0.271 ( $p < .001$ ).

ンティック、ロマンティックの方がアロマンティックやクエスチョニングよりも男性（異性）に恋愛的に惹かれていた割合が高く、さらにロマンティックはグレイ（ア）ロマンティック、デミロマンティック、リスマンティックと比較しても割合が高い。

シスジェンダー男性についても、アロマンティックの方がロマンティックよりも男女どちらにも恋愛的に惹かれたことがない割合が高く、ロマンティックの方がアロマンティックよりも女性（異性）に恋愛的に惹かれていた割合が高いなど、シスジェンダー女性と同様の傾向がみられる。ただし、シスジェンダー男性による回答が少なく、その中でもグレイ（ア）ロマンティック、デミロマンティック、リスマンティック、クエスチョニングは特に該当者が少ないため、これらのカテゴリーについては傾向を把握することが困難である。

また、非シスジェンダーについても、アロマンティックの方が他のアイデンティティを持つ回答者よりも男女どちらにも恋愛的に惹かれたことがない割合が高く、グレイ（ア）ロマンティック、デミロマンティック、リスロマンティック、ロマンティックの方がアロマンティックよりも男性に恋愛的に惹かれていた割合が高いなど、シスジェンダー女性と同様の傾向がみられる。非シスジェンダーに特有の傾向としては、両性・全性に惹かれていた回答者の割合がシスジェンダー女性およびシスジェンダー男性よりも高いことがあげられる（ただしロマンティックのみ、シスジェンダー男性の方が両性・全性に惹かれていた回答者の割合が高い）。

Table 2 をみてみると、Aro/Ace自認後の恋愛的に惹かれの分布もアロマンティック・スペクトラム・アイデンティティによる差がそれぞれの性別でみられ、Aro/Ace自認前の恋愛的に惹かれの分布と同様の傾向がみられる。シスジェンダー女性について、Aro/Ace自認前の恋愛的に惹かれの分布（Table 1）と比較すると、いずれのアイデンティティにおいても男女どちらにも恋愛的に惹かれていない回答者の割合が増えている。例えばアロマンティックの場合、自認前の割合は47.3%であるが、自認後の割合は75.7%である。また、男性（異性）に恋愛的に惹かれている回答者の割合は減っている。例えばクエスチョニングの場合、自認前の割合は27.6%であるが、自認後の割合は9.2%である。

シスジェンダー男性についても、Aro/Ace自認前の恋愛的に惹かれの分布（Table

Table 2 性別にみたアロマンティック・スペクトラム・アイデンティティとAro/Ace自認後の恋愛惹かれの関係

(%)	アロマンティック	グレイ（ア）ロマンティック	デミロマンティック	リスロマンティック	ロマンティック	クエスチョニング	その他	全体	
シスジェンダー女性 <sup>a</sup>	男女どちらにも恋愛的に惹かれたことがない	75.7	37.0	22.4	21.9	14.3	43.4	44.4	51.4
	男性	4.9	17.8	25.0	31.3	55.7	9.2	16.7	17.5
	両性・全性	3.1	6.8	14.7	25.0	13.6	10.5	11.1	8.4
	女性	2.0	13.7	19.8	9.4	11.4	6.6	5.6	7.1
	分からない	12.3	23.3	12.9	12.5	4.3	22.4	9.3	12.7
	その他	2.0	1.4	5.2	0.0	0.7	7.9	13.0	3.0
	n	511	73	116	64	140	76	54	1,034
シスジェンダー男性 <sup>b</sup>	男女どちらにも恋愛的に惹かれたことがない	63.4	12.5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.7
	男性	4.9	12.5	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	6.3
	両性・全性	0.0	0.0	20.0	0.0	31.8	0.0	50.0	11.4
	女性	9.8	37.5	40.0	0.0	54.5	0.0	0.0	26.6
	分からない	19.5	25.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	13.9
	その他	2.4	12.5	0.0	0.0	4.5	0.0	50.0	5.1
	n	41	8	5	1	22	0	2	79
非シスジェンダー <sup>c</sup>	男女どちらにも恋愛的に惹かれたことがない	81.1	31.9	18.0	20.0	12.1	32.8	35.9	50.4
	男性	2.5	8.5	18.0	11.4	22.4	12.5	5.1	8.6
	両性・全性	3.7	23.4	32.0	42.9	27.6	10.9	15.4	14.9
	女性	2.9	21.3	18.0	14.3	27.6	9.4	0.0	9.9
	分からない	7.8	12.8	12.0	8.6	8.6	28.1	25.6	12.5
	その他	2.1	2.1	2.0	2.9	1.7	6.3	17.9	3.7
	n	243	47	50	35	58	64	39	536

Note. いずれの性別についても期待度数5未満のセルが20%以上であったため、モンテカルロ・シミュレーションを行った上でカイ二乗検定を行っている。<sup>a</sup>  $\chi^2$ : 464.071 ( $p < .001$ ), Cramer's V: 0.300 ( $p < .001$ ). <sup>b</sup>  $\chi^2$ : 69.559 ( $p < .001$ ), Cramer's V: 0.420 ( $p < .001$ ). <sup>c</sup>  $\chi^2$ : 269.565 ( $p < .001$ ), Cramer's V: 0.317 ( $p < .001$ ).

1) と比較すると、Aro/Ace自認後のアロマンティックにおける男女どちらにも恋愛的に惹かれていない回答者の割合の方が自認前の回答者の割合よりも高いなど、シスジェンダー女性と同様の傾向がみられる。ただし、シスジェンダー男性による回答が少なく、その中でもグレイ(ア)ロマンティック、デミロマンティック、リスロマンティック、クエスチョニングは特に該当者が少ないため、これらのカテゴリーについては傾向を把握することが困難である。

また、非シスジェンダーについても、Aro/Ace自認前の恋愛惹かれの分布(Table 1)と比較すると、Aro/Ace自認後のアロマンティックにおける男女どちらにも恋愛的に惹かれていない回答者の割合の方が自認前の回答者の割合よりも高い。ここから、シスジェンダー女性と同様の傾向が読み取れる。

Tables 3-5は、それぞれアロマンティック・スペクトラム・アイデンティティ別に特定の人に対する深い関心の有無(設問:「特定のことを深く知りたいと思いますか。」、ドキドキの有無(設問:「特定の人に胸が「ドキドキ」する感情を抱くことがありますか。「ドキドキ」には憧れなど恋愛以外の好意的な感情も含まれます)、交際意欲の有無(設問:「特定の人と「付き合いたい」と思うことがありますか。))の分布をみたものである。なお、本調査では各設問の選択肢として5段階で態度を測定しているが、以下の分析では3段階に変換したものをを用いる<sup>4</sup>。また、調査内にて「本調査における「特定の人」とは現実会ったことがある人を指します。」という注を表示している。

Table 3によると、アロマンティックの方が他のアイデンティティを持つ回答者よりも特定のことを深く知りたいと思う割合が低い。その一方で、ロマンティックやデミロマンティックはその割合が高く、グレイ(ア)ロマンティック、リスロマンティックや、クエスチョニングは中間的な位置を占めている。

Table 4によると、特定の人に対する深い関心の有無の分布と同様に、アロマンティックの方が他のアイデンティティを持つ回答者よりも特定の人に胸が「ドキドキ」する感情を抱くことがあるという割合が低い。しかしながら、ロマンティックの方が他のアイデンティティを持つ回答者よりも割合が高いのは特定の

<sup>4</sup> 具体的には、「思う」「ある」と「やや思う」「ややある」を「ある」に、「どちらでもない」を「どちらでもない」に、「あまり思わない」「あまりない」と「思わない」「ない」を「ない」と再コーディングしている。

Table 3 アロマンティック・スペクトラム・アイデンティティと特定の人に対する深い関心の有無

(%)	テ ア イ ロ マ ン ク ン	ロ グ レ イ テ イ （ ア ） ク ン	テ デ イ ミ ロ マ ン ク ン	テ リ ス ロ マ ン ク ン	テ ロ マ ン ク ン	ニ ク エ ス チ ョ	そ の 他	全 体
ある	42.0	69.2	80.2	64.0	83.6	62.4	53.1	57.3
どちらでもない	11.0	7.7	5.8	13.0	6.4	10.6	14.6	9.9
ない	47.0	23.1	14.0	23.0	10.0	27.0	32.3	32.9
n	809	130	172	100	220	141	96	1,668

Note.  $\chi^2$ : 201.854 ( $p < .001$ ), Cramer's V: 0.246 ( $p < .001$ ).

Table 4 アロマンティック・スペクトラム・アイデンティティとドキドキの有無

(%)	テ ア イ ロ マ ン ク ン	ロ グ レ イ テ イ （ ア ） ク ン	テ デ イ ミ ロ マ ン ク ン	テ リ ス ロ マ ン ク ン	テ ロ マ ン ク ン	ニ ク エ ス チ ョ	そ の 他	全 体
ある	27.8	62.3	63.4	78.0	81.4	53.9	51.0	47.8
どちらでもない	4.0	6.2	3.5	2.0	4.5	5.7	4.2	4.2
ない	68.2	31.5	33.1	20.0	14.1	40.4	44.8	48.0
n	809	130	172	100	220	141	96	1,668

Note.  $\chi^2$ : 312.914 ( $p < .001$ ), Cramer's V: 0.306 ( $p < .001$ ).

Table 5 アロマンティック・スペクトラム・アイデンティティと交際意欲の有無

(%)	テ ア イ ロ マ ン ク ン	ロ グ レ イ テ イ （ ア ） ク ン	テ デ イ ミ ロ マ ン ク ン	テ リ ス ロ マ ン ク ン	テ ロ マ ン ク ン	ニ ク エ ス チ ョ	そ の 他	全 体
ある	7.4	23.1	45.9	28.0	66.4	20.0	28.1	23.9
どちらでもない	3.0	11.5	5.2	5.0	6.8	7.9	7.3	5.2
ない	89.6	65.4	48.8	67.0	26.8	72.1	64.6	71.0
n	809	130	172	100	220	140	96	1,667

Note.  $\chi^2$ : 430.644 ( $p < .001$ ), Cramer's V: 0.359 ( $p < .001$ ).

人に対する深い関心の有無の分布と共通している一方で、リスロマンティックの方がグレイ（ア）ロマンティック、デミロマンティックや、クエスチョニングよりも割合が高いという先ほどはみられなかった傾向が示されている。

Table 5によると、特定の人に対する深い関心の有無の分布やドキドキの有無の分布と同様に、アロマンティックの方が他のアイデンティティを持つ回答者よりも特定の人を独占したいと感じる割合が低い。ロマンティックの方が他のアイデンティティを持つ回答者よりも特定の人と「付き合いたい」と思うことがある割合が高いのもこれまで検討してきた分布の傾向と同様である。交際意欲の有無の分布では、デミロマンティックの方がグレイ（ア）ロマンティック、リスロマンティックや、クエスチョニングよりも割合が高い。

Tables 3-5を総合的に検討すると、アロマンティックをはじめとする多くのアロマンティック・スペクトラム・アイデンティティで、特定の人に対する深い関心、ドキドキ、交際意欲というように、他者との行動を伴う欲求に関する項目の方が行動を伴わない欲求の項目から他者との行動を伴う欲求に関する項目になるにつれて、肯定的回答の割合が低くなっていく傾向がみられる。リスロマンティックのように必ずしもこの傾向にあてはまらない恋愛指向アイデンティティが存在するものの、例えばアロマンティック回答者のうち、特定の人に対する深い関心の有無については42.0%が肯定的回答、ドキドキの有無については27.8%が肯定的回答、交際意欲の有無については7.4%が肯定的回答をしている。これらの分析結果を踏まえて、以下では分析結果を踏まえた議論および今後の課題について検討する。

## 5 考察

### 5-1 分析結果を踏まえた議論

本稿では、日本におけるアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛指向アイデンティティや恋愛惹かれ、恋愛に関連する欲求について記述し、恋愛指向の多面性を検討すべく、Aro/Ace調査実行委員会が実施した「Aro/Ace調査2020」を分析した。以下、分析で得られた結果の解釈を述べる。

Aro/Ace自認前および自認後の恋愛惹かれの分布をみると、アロマンティッ



ク・スペクトラム・アイデンティティによって傾向に違いがみられた。自認前、自認後の両方でアロマンティック自認がもっとも男女どちらにも恋愛的に惹かれたことがない割合が高いという結果は、アロマンティックの一般的な定義である「誰にも恋愛感情を持たない」(Decker, 2019, p. 43) と整合性があることを示している。また、ロマンティック自認は他のアイデンティティよりも異性に惹かれる割合が高いことから、ロマンティックが恋愛的に惹かれるアイデンティティとして認識されていることが確認できる。ただ、本調査では非スジェンダーを除き異性に恋愛的に惹かれる傾向が見られたが、海外の調査では異性よりも男女両方に恋愛的に惹かれる割合が高いという報告もあり (Antonsen et al., 2020)、これが日本特有の傾向といえるのかは議論の余地がある。

自認前と自認後の比較からは、いずれのアイデンティティでも自認後の方が男女どちらにも恋愛的に惹かれたことがない割合が高いことがわかった。恋愛的に惹かれないアセクシュアルのインタビュー調査では、自認後に恋愛の指向がゆらぐ経験が語られており (松尾, 2021)、恋愛的に惹かれには流動性がある可能性を指摘できる。ただし、それが自認の前後で認識や行動が変わるなど、当事者にとっての自認の重要性を指し示すものなのか、単に恋愛的に惹かれる流動性を示すものなのかについては今後の検討が待たれる。また、アロマンティックとロマンティック以外のアイデンティティでは、いずれもアロマンティックとロマンティックの間に位置するような数値であることがわかった。これは、アロマンティックとロマンティックがスペクトラムであり、各アイデンティティがその間に位置すると考えると理解しやすい。一方で、それぞれのカテゴリーは単に恋愛的に惹かれる強弱を表すわけではなく、デミロマンティックでいえば、情緒的な繋がりができてからのみ恋愛的に惹かれるを感じる (AUREA, 2021a) という要素が、いかに本調査の恋愛的に惹かれるの結果に反映されているのかは議論が必要な点である。また、リスロマンティックがロマンティックの次に恋愛的に惹かれる割合が高いのは、リスロマンティックの恋愛的に惹かれるがその感情が報われることや相手と関係を持つことを必要としないなどの定義 (AUREA, 2021a) との整合性から考えて妥当であると思われる。したがって、まれに／弱い恋愛的に惹かれるを感じる、または特定の環境下で恋愛的に惹かれるを感じるグレイ (ア) ロマンティック (AUREA, 2021a) やデミロマンティックは恋愛的に惹かれるを感じる程度または頻

度の低さや、恋愛的惹かれを感じる条件があるアイデンティティであるため、恋愛的に惹かれるリスロマンティックよりも恋愛的惹かれを感じるという回答の割合が低くなるという解釈も今後の議論として検討する価値がある。

次に、特定の人に対する深い関心、ドキドキ、実際意欲の分布から、アロマンティック・スペクトラム・アイデンティティによる違いが確認された。特定の人に対する深い関心については、深く知りたいという割合がロマンティックやデミロマンティックで高かったが、これは特定の人への関心が2つのアイデンティティでとくに強いことを示唆している。ロマンティックでその割合が高いことは恋愛的惹かれそのものが、特定の他者への関心と結びついているという見方もできるが、リスロマンティックがロマンティックより低い割合だったことから、特定の他者への関心と恋愛的惹かれが必ずしも一致するわけでない可能性もある。同様に、デミロマンティックで特定の他者への関心を示す割合が高かったことは、恋愛的惹かれそのものだけでなく、情緒的な繋がりができてからのみ恋愛的に惹かれる (AUREA, 2021a) という要素と関係がある可能性もある。一方で、松尾 (2021) は恋愛的に惹かれないアセクシュアルは相手によって態度を変えずに平等に接するという当事者の語りを報告しており、アロマンティックで特定の他者への関心がある割合は低かったのは、「特定の」という部分が影響しているという解釈も可能である。

ドキドキの有無に関しては、ほとんどのアイデンティティで特定の他者への関心の有無と同じ傾向が示されたが、リスロマンティックとデミロマンティックでは異なる傾向がみられた。ここから、リスロマンティックのアイデンティティには、特定の他者への関心よりもドキドキという感覚の方が恋愛的惹かれと結びつきが強い可能性が指摘できる。その反対に、デミロマンティックはドキドキという感覚よりも、特定の他者への関心の方が恋愛的惹かれとの結びつきが強い可能性が示唆される。実際意欲についても、アロマンティックとロマンティックの傾向はこれまでの項目と同様だった。一方、デミロマンティックがグレイ (ア) ロマンティックやリスロマンティック、クエスチョニングよりも実際意欲がある割合が高い結果だった。これは、情緒的な繋がりができてからのみ恋愛的に惹かれる (AUREA, 2021a) という定義から考えると、デミロマンティックの場合は情緒的な繋がりがあの人に恋愛的に惹かれることと実際との間に関連性があると推

察される。

最後に、各項目（特定の人に対する深い関心、ドキドキ、交際意欲）の結果から、交際意欲のような他者との行動を伴う欲求に関する項目の方が、特定の人に対する深い関心やドキドキのような他者への欲求ではあるものの、他者との行動を必ずしも伴わない欲求に関する項目よりも肯定的回答の割合が低い傾向があることがわかった。この結果は、英語圏の当事者コミュニティ調査でも確認されていることであり（AUREA Aro Census Team 2020, 2021）、特定の他者との関係性に対する態度が、恋愛の惹かれにおける準拠点となる可能性があるというこれまでの日本における質的研究とも同調するものである（松尾, 2021; 吉岡, 2019）。ここから、恋愛の惹かれの認識および恋愛の指向の自認において、他者との関係性（への欲求）が重要な役割を果たすことが示唆される。本稿と同じデータを用いてアセクシュアル・スペクトラムの自認と性的惹かれに関連する項目について分析した三宅&平森（2021）は、性的指向の自認においても他者との行動への欲求が準拠点となる可能性を示しており、この傾向が恋愛の指向と性的指向どちらにも共通する傾向である可能性を示唆している。

その一方で、すでに述べたように、デミロマンティックやリスロマンティックのように項目によって肯定的回答の割合が異なる場合があり、他者との行動を伴う欲求と恋愛の惹かれにおける認識の関係性は複雑であると推察される。デミロマンティックやリスロマンティックの定義に他者との関係性に関連する条件が含まれるように、恋愛の指向の自認と他者との関係性（への欲求）が関連することには変わりはないと思われるが、恋愛の惹かれは単一の基準では測定できない概念であることが本分析により計量的に示された。以上の示唆は恋愛の惹かれを扱う研究全般にも適用されると考えられ、単一の基準で測定してきた他のジェンダー・セクシュアリティ研究などでも議論していく必要がある。例えば、ロマンティック・セクシュアル（アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムではない）の人であっても、恋愛に関する欲求を細かく分けて聞いてみると、本稿と同様に多様な結果が得られる可能性がある。その点で、本稿で提示した内容はアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラム研究以外にも広く開かれているといえよう。

## 5-2 今後の課題

本稿では、日本におけるアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛指向アイデンティティや恋愛的感情、恋愛に関連する欲求について記述し、恋愛指向の多面性を示したが、限界もある。主に、以下3つの限界点を示したい。第1に、本稿では当事者コミュニティのネットワークを利用した調査のデータを分析しており、本稿で示した結果が日本のアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラム人口一般に適用できるか否かについては慎重になる必要がある。「Aro/Ace 調査2020」はオープン型ウェブ調査のメリットである、関心層にアプローチしやすいという面があるものの、性別や年齢階級も含め、本調査で示した回答の分布を一般化するためには無作為抽出の調査が必要である。第2に、本稿でアプローチした当事者に偏りがある可能性もある。例えば、すでに述べたように、恋愛感情を抱いたことがない割合は女性で2.9%、男性で2.0%だったという無作為抽出調査の結果が報告されており（釜野 et al., 2019）、本稿で使用したデータよりも性別による差が小さい可能性がある。当然のことながら、恋愛的感情と恋愛指向の自認は別概念であり、単純な比較はできないが、今後は恋愛指向の自認プロセスに関する質的研究を進めるとともに、より広範に当事者にアプローチする調査設計を模索する必要がある。第3に、本稿では量的調査の特性およびアロマンティック・スペクトラム・アイデンティティ別の分析という新規性から、各結果の意味や背景の解釈に限界がある。例えば、本稿では、各アイデンティティの結果の解釈を主に定義に照らして考察したが、すでに述べたように日本における用語の使い方が多様であることを考慮すると、定義のみで解釈することが妥当であるか留意が必要である。したがって、今後は質的研究など多様なアプローチからの調査、研究が強く望まれる。

本稿では、日本におけるこれまでの研究（Lehtonen, 2018; 釜野 et al., 2019; 松尾, 2021; 松浦, 2020; 三宅 & 平森, 2021; 吉岡, 2019）では中心に扱われてこなかったアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛指向に注目し、さらにアロマンティックとロマンティックの比較研究（Antonsen et al., 2020; Carvalho & Rodrigues, 2022）を超えて、アロマンティック・スペクトラムの恋愛指向に関連する欲求等について検討した。今後は、アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの恋愛指向とそれ以外のセクシュアリティにおける

恋愛指向を比較するなど、セクシュアリティの多様性と複雑性を検討していきたい。アロマンティックやアセクシュアルが社会的に注目されつつあるものの、アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムに関する学術研究が不足している中で、本稿で示した結果とその限界点を踏まえた今後の研究の発展が望まれる。

## Acknowledgments

「アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラム調査2020」データの二次利用にあたっては、調査主体である As Loop の許可を得た。本稿の執筆にあたり、2名の匿名査読者より極めて重要で有益な指摘をいただいた。また、英文要旨の作成にあたっては、カリフォルニア州立大学サンバーナーディーノ校社会学部の Megan Carroll 氏による助言を受けた。ここに記して感謝申し上げたい。

## References

- Antonsen, A. N., Zdaniuk, B., Yule, M., & Brotto, L. A. (2020). Ace and aro: Understanding differences in romantic attractions among persons identifying as asexual. *Archives of Sexual Behavior*, 49 (5), 1615–1630.
- AUREA. (2019). *Aromantic history*. AUREA. Retrieved August 30, 2022, from <https://www.aromanticism.org/en/news-feed/aromantic-history>
- AUREA. (2021a). *Aromantic identity terms*. AUREA. Retrieved August 30, 2022, from <https://www.aromanticism.org/en/identity-terms>
- AUREA. (2021b). *Basic aromantic terms*. AUREA. Retrieved August 30, 2022, from <https://www.aromanticism.org/en/basic-terms>
- AUREA Aro Census Team 2020. (2021). *The aro census 2020 report*. Retrieved August 30, 2022, from <https://aromanticism.org/aro-census>.
- Brotto, L. A., Knudson, G., Inskip, J., Rhodes, K., & Erskine, Y. (2010). Asexuality: A mixed-methods approach. *Archives of Sexual Behavior*, 39 (3), 599–618.
- Carvalho, A. C., & Rodrigues, D. L. (2022). Sexuality, sexual behavior, and relationships of asexual individuals: Differences between aromantic and romantic orientation. *Archives of Sexual Behavior*, 51 (4), 2159–2168.
- Chu, E. (2014). Radical identity politics: Asexuality and contemporary articulations of identity. In K. J. Cerankowski & M. Milks (Eds.), *Asexualities: Feminist and queer perspectives* (pp. 79–99). New York: Routledge.
- Decker, J. S. (2019). 『見えない性的指向 アセクシュアルのすべて——誰にも性的魅力を感じない私たちについて』(上田勢子, Trans.). 東京: 明石書店. (Original work published 2015).
- Diamond, L. M. (2003). What does sexual orientation orient? A biobehavioral model distinguishing romantic love and sexual desire. *Psychological Review*, 110 (1), 173–192.
- Lehtonen, K. (2018). *No romantic feelings – asexuality in Japan: Ren'aikanjou nai? Nihon ni okeru asekushariti*. Retrieved August 30, 2022, from <https://trepo.tuni.fi/handle/10024/103135>
- Aro/Ace 調査実行委員会. (2021). 『アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラム調査 2020 調査結果報告書』. Retrieved August 30, 2022, from <https://asloop.jimdofree.com/aro-ace調査/調査結果/2020年度/>
- アシタノカレッジ. (2022). 「アロマンティック」「アセクシュアル」という言葉を、あなたは知っていますか?～多様な性を考える～. TBS ラジオ. Retrieved August 30, 2022, from <https://www.tbsradio.jp/articles/54692/>
- 釜野さおり, 石田仁, 岩本健良, 小山泰代, 千年よしみ, 平森大規, 藤井ひろみ, 布施香奈, 山内昌和, & 吉仲崇. (2019). 『大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生についてのアンケート報告書 (単純集計結果)』. JSPS 科研費 16H03709 「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築」・「働き方と暮らしの多様性と共生」研究チーム (研究代表者 釜野さおり) 編 国立社会保障・人口問題研究所 内. Retrieved August 30, 2022, from [http://www.ipss.go.jp/projects/f/SOGI/\\*20191108大阪市民調査報告書\(修正2\).pdf](http://www.ipss.go.jp/projects/f/SOGI/*20191108大阪市民調査報告書(修正2).pdf)
- 釜野さおり, 石田仁, 風間孝, 平森大規, 吉仲崇, & 河口和也. (2020). 『性的マイノリティについての意識: 2019年(第2回)全国調査報告会配布資料』. JSPS 科研費 (18H03652)「セ

- クシュアル・マイノリティをめぐる意識の変容と施策に関する研究」(研究代表者広島修道大学 河口和也) 調査班編. Retrieved August 30, 2022, from <http://alpha.shudo-u.ac.jp/~kawaguch/2019chousa.pdf>
- 松浦優. (2020). 「アセクシュアル研究におけるセクシュアルノーマティヴィティ (Sexual-normativity) 概念の理論的意義と日本社会への適用可能性」. 『西日本社会学会年報』, 18, 89-101.
- 松尾由希子. (2021). 「Aセクシュアルの大学生が捉える自己と将来への展望: インタビュー調査を通じて」. 『静岡大学教育研究』, 17, 37-52.
- 三宅大二郎, & 平森大規. (2021). 「日本におけるアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの人口学的多様性—「Aro/Ace 調査2020」の分析結果から—」. 『人口問題研究』, 77(2), 206-232.
- 日本放送協会. (2022). 「知っていますか?“アロマンティック・アセクシュアル”」. NHK ニュース. Retrieved August 30, 2022, from <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220322/k10013544761000.html>
- 野口雄大, 押田友太, & 土井祥平 (Directors). (2022). 『恋せぬふたり [DVD of television series]』 東京: NHKエンタープライズ.
- 埼玉県. (2021). 『埼玉県 多様性を尊重する共生社会づくりに関する調査報告書』.
- 特定非営利活動法人にじいろ学校. (2021). 「用語一覧」. 特定非営利活動法人にじいろ学校. Retrieved August 30, 2022, from <https://www.nijikou.com/%E7%94%A8%E8%AA%9E%E4%B8%80%E8%A6%A7/>
- 吉岡真梨子. (2019). 「Asexualであるという自覚はいかにしてなされ自己受容されるのか?: ライフストーリー・インタビューによる事例から」. 『学習開発学研究』, 12, 61-70.

## Abstract

### **Multidimensionality of Romantic Orientation among the Aromantic/Asexual Spectrum in Japan**

Daijiro MIYAKE, Daiki HIRAMORI

In recent years, the aromantic/asexual spectrum has become more visible in Japan, and research on sexual orientation among the aromantic/asexual spectrum remains limited but is increasing. However, there is extremely little research that focuses on romantic orientation. Studies on romantic orientation in Western countries tend to discuss aromanticism as one of the romantic orientations that asexual people possess. In Japan, on the other hand, the framing of romantic orientation in the aromantic/asexual spectrum community differs from that in Western countries, as the terminology in Japan occasionally labels someone “asexual” only if they are neither romantically nor sexually attracted to other people. Furthermore, extant quantitative research tends to be limited to discussions that rely on the dichotomy of aromantic or not, despite findings from community-based surveys that suggest romantic orientation is multifaceted, making it necessary to discuss various dimensions of romantic orientation. This study used the “Aromantic/Asexual Spectrum Survey 2020,” a web survey conducted by the Aro/Ace Survey Executive Committee, to examine the multidimensionality of romantic orientation by describing romantic identity, romantic attraction, and romantic desire. Findings indicated that the distributions of romantic attraction before and after self-identification as aro-ace differed by aromantic spectrum identity, such as alloromantic, aromantic, gray(a)romantic, demiromantic, lithromantic, and questioning. Differences by aromantic spectrum identity were also observed in the distributions of deep interest in a particular person, romantic excitement, and the desire to date. Items related to desires that involve actions with others, such as the desire to date, tended to have a lower percentage of positive



responses than items related to desires that do not necessarily involve actions with others, such as deep interest in a particular person and romantic excitement.

**Keywords:**

aromantic, asexual, community-based survey, LGBT, romantic orientation

